

製品名: LATS1/WARTS ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87201**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,FC 1:200-1:500
分子量	Calculated MW:127 kDa; Observed MW:140 kDa

抗原情報

遺伝子名	LATS1/WARTS
別名	wts; WARTS
遺伝子ID	9113
SwissProt ID	O95835
免疫原	ヒト LATS1/WARTS の組み換えタンパク質

背景

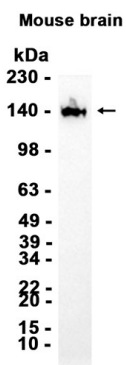
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、推定上のセリン / スレオニンキナーゼであり、有糸分裂装置に局在し、有糸分裂初

期に細胞周期制御因子 CDC2 キナーゼと複合体を形成する。このタンパク質は細胞周期依存的にリン酸化され、前期後期のリン酸化は中期まで持続する。このタンパク質の N 末端領域は CDC2 と結合して複合体を形成し、H1 ヒストンキナーゼ活性が低下することから、CDC2/サイクリン A の負の調節因子としての役割が示唆される。さらに、C 末端キナーゼドメインは自身の N 末端領域に結合することから、分子内結合を介して複合体形成を阻害することで負の調節能を発揮する可能性が示唆される。生化学的および遺伝学的データは、腫瘍抑制因子としての役割を示唆している。これは、ノックアウトマウスを用いた研究で、軟部肉腫、卵巣間質細胞腫瘍の発生、および発癌性治療に対する高い感受性が示されたことで裏付けられている。[RefSeq 提供、2017 年 4 月]

研究分野

-

画像データ



LATS1/WARTS ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。